

善導大師 二河白道の御和讃

高 津 ときを 作詞
松 濤 基 作曲

♩ = 60ぐらい

× ○ × × ○ × × ○ × × ○ ×

[齊唱] たびびと — ひと—り ひ—が — しより
 こ—ろ — ひと—んに し—ず — むとき
 しゅじょう— — さいどの ひ—が — んより

tr *tr*

mf

× ○ × × ○ × × ○ × × ○ ×

にし—に — むこうに た—い — があり
 なみ—の — まにまに み—え — かくれ
 ぜんどう — だいしの さ—と — されし

tr

× ⊗ ⊗ ⊗ ⊗ ⊗ ⊗ ○ × × ○ ×

きた は — さかまく み—ず — のうず
 しろ く — かがやく ひ—と — すじの
 にが びゃ — くどうの た—と — えこそ

× ⊗ ⊗ ⊗ ⊗ ⊗ ⊗ ○ × × ○ × ×

みなみは — も ゆ— る ひ—の — ほむら
 みち—の — あるこそ た—の — みなれ
 たのみの — つ な— と い—う — べけれ

Trum *rit.*

(最後の時)

(歌詞は41 ページ)

ポイント注意

リズムカルにお唱えします。「北は」と「燃ゆる」に力をこめます

に が びやく どう 二 河 白 道 和 讃

高津 ときを 作詞

- ① 旅人一人 東より 西に向うに 大河あり
北は逆巻く 水の渦 南は燃ゆる 火のほむら
2 深く底無く 辺り無く 水火こもごも 押寄せて
右も左も 荒れ狂う 地獄の谷ぞ 恐ろしき
3 後を見れば 群賊や 野獣の群の 吠え迫る
前へ進むも 助からず 後へ戻るも 亦死なり
4 旅の疲れの 重き足 踏出すべきか 然らずか
進退ここに 谷まりて 憐れ空しく 立ち竦む
⑤ 心悲嘆に 沈む時 波の間に間に 見え隠れ
白く輝く 一筋の 道の有るこそ 頼みなれ
6 東の岸に 声ありて 汝行くべし 進むべし
我は釈迦也 守護してぞ 必ず無事に 渡さなん
7 西の岸にも 声ありて 極楽教主の 弥陀如来
御手をさしのべ 励まして 来れ来れと 招かるる
8 勇気百倍 まっしぐら 歩み運べば 忽ちに
身は彼岸の 蓮の上 あら有難の 浄土かな
9 怒り責り 愚かさの 三煩惱に 阻まれて
迷いの里を 出で難き 我等凡夫の 悲しさよ
⑩ 衆生済度の 悲願より 善導大師の 諭されし
二河白道の 贅えこそ 頼みの綱と 云うべけれ

(楽譜は 42 ページ)